

【議題】

あいさつ

- 1 「平成25・26年度 大田区区民協働推進会議 活動報告」について
- 2 「平成23・24年度 大田区区民協働推進会議 活動報告」における提言への対応状況について
- 3 その他

【出席者】

勝又委員 加藤委員 中島委員 石垣委員 石川委員
平澤委員 山本委員 牛山委員

地域力推進部長 区民協働担当課長 地域力連携協働支援員
区民協働担当 2名

【会議録】

- 事務局 定刻になりましたので、平成26年度第7回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。
本日、委員8名の方にご出席していただいておりますので、大田区区民協働推進会議設置要綱第6条に基づき、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。
なお、議事録作成のため、本日の会議を録音させていただきますのでご承知ください。
始めに、地域力・国際都市担当部長からごあいさつを申し上げます。
- 会長 《会長あいさつ》
- 事務局 続きまして、会長にごあいさつをお願いします。
- 部長 《部長あいさつ》
- 事務局 ありがとうございます。この後は、会長が退席されますので、副会長に進行をお願いします。
- 副会長 それでは、会議をはじめます。
「平成25・26年度 大田区区民協働推進会議 活動報告」について事務局から説明をお願いします。
- 支援員 平成25・26年度 大田区区民協働推進会議 活動報告(案)について説明します。
<平成25・26年度 大田区区民協働推進会議 活動報告(案)>
の資料を基に説明
- 副会長 ありがとうございます。
報告書(案)について、事前に意見が提出されてますので、説明をお願いします。
- 委員 [細かい指摘]
①p.1で調査対象の地区名 大森・調布・蒲田の地理的情報を入れる。

- ②p. 7 p. 11 p. 13 p. 19 グラフに脚注（注 グラフ中の数字は団体数をあらわす）を入れる。
- ③p. 34～p. 37 脚注に、右列の「他年度実施」の意味がわからないので、意味の説明を入れる。
- [大きな指摘]
- ①自治会・町会ニーズについては今後モデル事業のすすめ方への提言と言えるところまで議論は行っていなかったと思うので「提言」を出せるのか。また、アンケート調査、ヒアリング調査を実施して何がわかったか、わかったことに基づいて提言とするような繋がりが欲しい。
- ②プレスリリースのように、A4で1ページの概要を作成し、報告書と併せて配布する。

副会長 調査報告をまとめるのにはごもっともな指摘事項でしたので、できるだけ反映させていただきたいと思います。

課長 大きな指摘の部分ですが、事業事態がまだ継続して進んでいる状況で、これまでの皆さんからいただいた意見をまとめて、提言という形式でテーマ2に合わせた面もあります。ここまでの成果を検証し、残りの年度課題を記述することでまとめるというのが皆様からの意見であれば、そのように修正します。

委員 資料は綿密に結果報告が出ていると思いますし、利用するのに非常に読みやすく、よくできていると思います。ボリュームがあるとつい流してしまいますので、A4サイズ1枚にまとまっているものがあれば読みやすいです。

課長 概要版についても作成する予定です。

副会長 小さな指摘の部分については、できる範囲で反映があればよいと思いますが、大きな指摘の部分については、提案された委員は今の答えでいいですか。

委員 モデル事業はまだ継続中なので、モデル事業についての提言をここでするのは早すぎると思いました。提言という形はとらず、成果と課題を記載するということですね。大田区の町内会の実情というのが見えてきているものがあると思います。皆知っていることですが、データとして出てきたことが重要であると思います。概要版に目を引くようにページも記載しても良いと思います。調査してみたら、NPOについて町会側で必要とされていないという結果が出ましたが、それはあまり知られていないからだということがわかりました。次に自治会・町会の改革を行おうと考えたとき、とても参考になるのではないかと思います。また、このような調査を他区で実施しているのかわかりませんが、大いに参考になり、大田区の実施していることのPRになると思います。提言ではなく、成果と課題でまとめるという点はそれでよいと思います。

課長 アンケート調査を基にヒアリング調査を行った結果、人材確保が課題となっていることがわかりました。モデル事業の結果は、事業終了後に検証ができると思いますので、その時点で議論を行い、提言という形になると思います。

委員 ストーリーに問題があると思います。せっかくアンケートを実施し、分析をも行い、モデル事業を立ち上げていますが、モデル事業の立ち上げが少し強引だった感があります。私もアンケートの中で読めるところがあると思いますので、そこを会議の中で十分議論していけば、アンケートに対しての提言もできたのではないかと思います。

副会長 提言という形をとるのは私も良いとは思いませんので、これまでの内容を成果と課題

としてまとめるということで修正できますか。

課長 そのように修正します。

委員 全体としては、いろいろな会議に私も出席していますが、少ない回数の中でアンケートを実施し、分析、議論を経てまとめたということ自体、内容のあるものができて凄いと感じています。事務局のご苦勞が相当にあったと思います。せつかくここまでできたので、どのように区民に公開していくか、区民にどのように戻していくかが重要だと考えます。もう一つ、助成金のテーマについてですが、この会議でも検討されていましたが、他の部署でも、助成金はいろいろあるのですね。だから、他の助成金とは違うこの助成金らしさというものが何か、他の助成金との違いを審査した方がいいのではないかと思います。

課長 特に自治会・町会やNPOには、最終的に成果が出たら、その内容を団体あてにきめ細かく説明していくことが必要であると考えています。

委員 プレスリリースはないのですか。町会の現状と言う言葉は興味を引くと思います。専門の部署はありますか。

課長 広報課という専門の部署がありますので、そこから発信していきます。

事務局 ホームページには前期もアップしていますので、今期分も区長に提言として提出し、然るべきタイミングでアップしていく予定です。

委員 ホームページのアクセス数はわかりますか。前期の提言書のアクセス数がわかれば傾向が掴めますよね。ホームページにアップしたから、情報を拡散したと思うのは大きな間違いです。

委員 トップページにも出せば、そこからリンクして提言書まで引っ張ってくることもできると思います。

副会長 良くまとまっていると思います。確認したいのは、アンケート結果は自治会・町会にも報告しますか。

課長 結果報告は、アンケート調査の結果の段階で行っています。

部長 報告書の1ページに、自治会・町会のあり方検討会で課題となっている部分であることが示されています。この会議でアンケート調査を行っていただきましたので、この報告書についても自治会・町会に説明し、これを参考にして取り組んでいただきたいと考えています。

委員 成功事例集みたいなパンフレットを作っていただくと見やすいし、参考になると思います。

支援員 今回はアンケート調査に基づいて、人材確保についての情報収集をしましたが、この推進会議に関わるもの以外の別の会も含めて、事例の発掘を進めています。丁度、次の議題でお話しようと思っていたのですが、人材育成関係の講座や団体同士の交流の中で、発掘した事例でわかりやすいものについて紹介していきたいのですが、冊子を作る程のボリュームはまだ集まっていません。光る取り組みについては、すでに交流の場の中で紹介する実践は行っています。もう少し蓄積されてくると冊子にできると

思います。

副会長 区民協働推進会議設置要綱で、この委員会の役割はどのようになっていますか。

事務局 設置要綱上は、所管事項としては、①協働推進に関する調査・研究及び区長への提言をおこなうこと、②地域力応援基金の審査を行い、助成団体を区長へ推薦することとなっています。

副会長 審議会的なものとして、審査・決定を行うという所で、拘束力があれば、条例で決めないと違法となるので気になっています。書き方の問題ですが、推薦する、決定するのは区長が良いと思いますが、この会議が決めるというニュアンスが強いと良くないとも思います。表現的なことですが、事務局と相談したいと思います。いきなり条例化するのも何なので、違法にならないように考えましょう。ここまで、意見がたくさん出ましたので、事務局で修正案を作成し、委員に確認を得てまとめたいと思います。

<全委員了承>

それでは、次の議題についてお願いします。

支援員 前期の提言への対応状況について、本当は、前期委員の皆さんに報告しなくてはいけないところですが、委員会の継続性がありますので、皆さんに報告をさせていただきます。

<「平成23・24年度 大田区区民協働推進会議 活動報告」における 提言への対応状況について>資料に基づき説明

前期の提言は、全部で6つありましたが、ここでは、「区が行うもの」とされた提言4～6について対応状況を報告します。

<提言4 参考になる事例を広げる

区民活動も起業であれ、たくさん立ち上がることが、必要である。その際、うまくいっている事例を参考にできるとよい。今回取り上げた事例をみても、自治会・町会にせよ、NPO・ボランティア団体にせよ、光っている事例が多い。こういった事例をPRしたり、事例に学んだりする場を設け、同様の活動が増えるように支援するのが、区の役割として重要である。

一方で、居場所づくりやサロン活動でいえば、使用する施設の耐震性や安全性、ボランティア保険など、団体が気づかない視点のフォローも区として配慮してほしい。

>
.....

平成25年度に区民協働推進会議の調査研究のテーマとして、「自治会・町会の現状と連携・協働ニーズ調査」を実施し、自治会・町会が取り組んでいる事例を把握し、この事例をもとに26年度にはヒアリングや現地調査、モデル事業などを実施しました。それ以外にも、区民活動養成講座の「演習」として、地域における人材や団体のコーディネート事例を現地調査、NPO・区民活動フォーラムでの出店団体等で学習・交流する企画を行い、区民協働担当事業から事例を学びました。

<提言5 協働が進むためのしかけをする

協働が必要とされるテーマを区が設定し、地域の様々な団体に呼びかけることが考えられる。区では、東日本大震災の被災地支援ボランティアの経験を活かして地域の防災力向上を図るため、平成24年度より「防災塾」を実施しているが、地域コミュニティをつくるうえでは、防災は適したテーマである。こういったテーマを地域に投げかける場合、区とつながりの深い地縁団体だけでなく、NPO・ボランティア団体なども入りやすくする必要がある。

地域力応援基金助成事業のジャンプアップ助成は、区がテーマを設定して団体から事業を募集する形で行われている。スタートアップ助成やステップアップ助成も含めて、協働を評価する項目に重点を置くことで、地域での協働を後押しすることができる。>

.....

平成25・26年度の防災塾は、地域防災力を高める内容で実施しました。また、地域力応援基金助成事業について、審査項目の見直しを行う中で、「4つの力」と総合的視点を審査項目としており、「連携協働力」はその1つとなっています。

<提言6 地域団体間の「つなぎ役」を増やす

自治会・町会、NPO・ボランティア団体、企業など、異なるタイプの団体が地域で協働するためには、団体間をつなぐ人材が重要である。

区では、平成21年度より「区民活動コーディネーター養成講座」を行い、特に、平成23年度からは、自治会・町会、青少年、民生・児童委員、保護司、PTA、NPO・ボランティア団体、地域包括支援センターなどで活動する人たちが一緒に受講する形をとり、団体間の「つなぎ役」となる人材の育成を図っている。

講座修了生が、特別出張所や区民活動支援施設（こらぼ大森、micsおおた）などとともに、実際に地域団体間の協働をコーディネートすることが重要である。また、平成25年度には、区立小・中学校の全校で「学校支援地域本部」が実施となるが、地域の人材や団体を学校につなぎ役を担うコーディネーター（各校上限3人を配置）にも受講を勧め、様々なタイプの団体を知り、ノウハウや人脈を得る機会にできるとよい。>

.....

地域団体間の「つなぎ役」発掘・育成のため、平成25・26年度も引き続き、「区民活動コーディネーター養成講座」を開講しました。25年度より、10回講座のカリキュラムとして学んだ事を実践につなげる橋渡し役を担うため、「地域交流サロン」を企画・運営する「実習」を行っています。更に、「つなぎ役」のネットワーク化のため、同年度から、講座修了者・現受講者を対象にした交流会を開催し、コーディネート事例の把握と共有を行っています。

また、平成25年より、区立小・中学校の学校支援地域本部（スクールサポート）のコーディネーターへの案内も行い、毎年度、受講を得ています。同年度の「地域交流サロン」の実習では、志茂田小学校のコーディネーターが中心となり「スクサポカフェ」を実施しました（終了後も継続）

副会長 区が行うものということで、提言4～6までの対応状況を報告いただきました。何か意見、質問等がありますか。

委員 これはどのように取り扱われますか。

課長 前期ホームページのところにアップしていきます。

副会長 ありがとうございます。本日の審議は以上となります。今期の区民協働推進会議は本日で最後となりますので、委員の皆様から一言ずついただきたいと思っております。

- 委員 何とかついてこれましたので、よかったです。
- 委員 初めて参加して、最初は何もわかりませんでした。地域力推進委員会と重複するような所があるようにも感じていました。これだけの調査を行い、それぞれの地域に指針を示すことができるのは重要なことだと思います。協力できる範囲内でやって参りましたが、更なる飛躍を願います。
- 委員 行政の委員としての参加で、区民協働推進条例を作った時の担当者でもありました。区民協働という動きの中から、会長が常々おっしゃられるように、連携・協働という形が進んでいるというところを実感しながら、参加させていただいてきました。六郷地区の和楽のつどい六郷も、多くの行政が参加しての取り組みであり、商店街の補助金なども活用して、地域の連携・協働を活発にして欲しいと実感しております。また、図書館での読み聞かせや様々な活動団体への報告など指定管理者の皆さんが、情報収集してくださって、来館される区民の方に、展示して活動報告を行うなど、連携・協働の輪が広がっていることを感じております。
- 委員 区民の立場で、区民協働推進会議にどの程度協力できたかわかりませんが、個人的に活動している団体の視点からは、いろいろな団体との連携を自ら声かけを行い、広がっています。私としては満足した2年間でした。
- 委員 2年間で本当にいろいろなことを勉強させていただきました。私は皆勤賞だったと思います。出席するのが楽しかったし、勉強させていただきました。1番良かったのは自治会・町会のことを勉強することができたことです。実は私は、マンション自治会の会長をやったことがあります。そのマンションの中で、現在ファミリーサポートの委員会ができて、そこのメンバーにもボランティアとして入っています。町会の話がマンションの話と繋がって、実際に何か取り組んでみたいと思っています。とにかく勉強させていただき、現地でヒアリングも行い、審査もやらせていただきましたので、とても充実した2年間でした。
- 副会長 本日最終回でした。会長が早退されましたが、皆さんからいろいろなご意見もいただくことができました。
私も大田区のこと、この区民協働推進会議委員になり、初めて勉強させていただいたところ、非常に熱心な区民の方がいて、行政も一生懸命取り組まれていて、かなり先進的な動きではないかと思えます。昨日都庁で東京の自治のあり方研究会の最終回がありまして、なんと5年半も将来を検討してきました。報告書がもうすぐ出てくると思いますが、かなり具体的なデータを集めて編集してもらいました。ある先生が、地方に行ってみると、東京もこんなに大変なんだと、地方でも実感してもらえくらい厳しい現状であると。区とか市町村のところはかなり激論したらしいのですが、広域連携のあり方とか協働というのは、しっかり入っていました。
- 皆さんの感想もいただき、本当に2年間ありがとうございました。